

ダンス未経験者における
題材のイメージの捉え方に関する研究
ー知覚から表現までの反応実験による検討ー

齋藤瀬奈（筑波大学大学院）

【研究背景・目的】

現代の学習者は、対面でのコミュニケーションの希薄化により他者を捉える力が乏しくなっているのではないかと考えられる。また、電子媒体を通して実体を感じることなく情報を手に入れていることで、対象物を捉える際にその形態や概念は分かっているにもかかわらず、対象物から感じ得る性質は実感しにくくなっているのではないかとと思われる。このような学習者の変化に伴い、ダンス授業においてこれまで用いられてきた題材に対する学習者の捉え方にも変化が起きていることが考えられる。現行の学習指導要領を見ると、創作ダンスでは題材のイメージを捉えて表現することが重視されており、複数のテーマと共に題材や関連する動き、展開の例について記載されている。しかし、いずれも学習者が動けるようにするための内容であり、題材のイメージを捉えるとは具体的にどのようなことなのか明記されていない。そこで、題材のイメージを捉えることの構造を明らかにする必要があると考え、その第一歩として本研究においては、学習者が題材に対して動けるのかどうか実験的調査を行い、イメージの捉え方との関係性を明らかにすることを目的とする。

【研究方法】

T 大学に在籍するダンス未経験の大学生・院生 33 名を対象に、①筆者：題材を提示し、②対象者：題材から想起したことを身体の動きであらわす。その様子を撮影した。実演後、インタビュー調査を行った。題材は「ダンス表現学習指導全書」などの文献から引用してプレ実験を基に 28 個選択した。インタビュー回答は、高野ら（2004）を参考に、一つの意味を担うまとまりごとに区切り、意味上からその内容を分析し、分類、整理する。

表 1：題材一覧

1	爆発	8	雪解け	15	花吹雪	22	夕立ち
2	炎	9	泡ぶく	16	水しぶき	23	煙
3	雨	10	波	17	渦潮	24	空
4	吹雪	11	芽生え	18	光	25	台風
5	落葉	12	沸騰	19	入道雲	26	水面のきらめき
6	地震	13	竜巻	20	虹	27	噴火
7	川の流れ	14	氷	21	稲妻	28	陽だまり

表 2：インタビュー項目

(1) 題材から想起した内容は何か。
(2) 身体の動きであらわす際、あらわそうとしたことは何か。
(3) 身体の動きであらわすためにどのような工夫をしたか。
(4) 身体の動きであらわすことを難しいと感じたか。
(5) (難しいと感じた場合) どこに難しさを感じたか。

【結果と考察】

1. 対象者が全く動けなかった題材の中で、最も多かった題材は[夕立ち]であった。理由としては「夕立ちが何か分からない」という回答や、夕日と勘違いをしている回答が多かった。よって、かつて取り上げられた題材の中には、今の学習者には理解されないものがあることが考えられる。また、身体の動きであらわすことが難しかったという回答が最も多かった題材は[空]であった。理由としては「空そのものはあわせない」、「実体がない」、「壮大で漠然としている」といった回答が多く見られた。つまり、抽象性が高い題材を、そのまま抽象度高く漠然と捉えてしまうと、動きであらわしにくくなると考えられる。

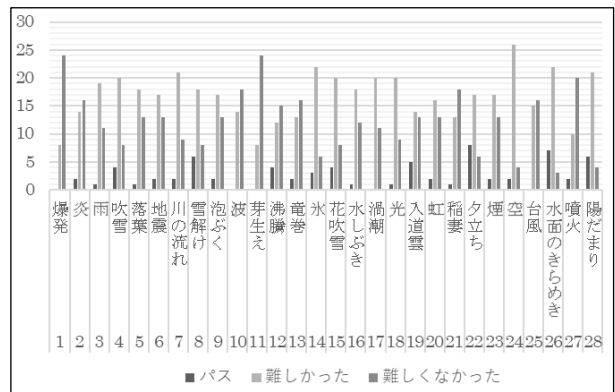


図 1：題材の難易

2. 多くの対象者は、題材[竜巻]、[渦潮]、[台風]に対して「回転する」という捉え方をしており、3つの違いを身体であらわすことが難しいと回答していた。この3つに限らず、題材を捉える際に「回転する」といった単純な運動動作のみを捉えようと、題材それぞれが持つ性質まで捉えきれず、題材を身体であらわしにくくなるのではないかと考えられる。また、多くの対象者が題材の景色や状態のイメージはあるものの、それを身体であらわす方法が分からないと回答していた。鈴木（1999）は、まず動いてみることで身体感覚や気持ちと結びつき、イメージが膨らみやすくなり、イメージと動きが連合し題材にふさわしい表現ができるようになる」と述べている。このことから、対象者は、題材の景色や状態のイメージを持つことはできていても、身体感覚や気持ちと結び付け、イメージと動きが連合するような捉え方をすることができていないと考えられる。

【引用参考文献】

- ・鈴木裕子（1999）幼児の身体表現におけるイメージと動きの相互作用ー題材と言葉がけの違いの視点からー。名古屋柳城短期大学研究紀要、(21)：157-170。
- ・高野美和子・島内敏子（2004）即興演舞時の身体：経験の違いから捉えた身体の様相。日本女子体育大学紀要、34：107-115。